

【強いアフリカ域内経済】 域内統合の推進と魅力的なビジネス環境の構築： アフリカ経済開発（産業開発・農業開発）とビジネス促進

現状と課題

- 一人当たりGDP成長率、就労者一人当たりの付加価値成長率が低く、農業部門の生産性を高めつつ民間企業の競争力を高め、生産的な雇用の創出と生産性の低い部門からの産業構造の転換が必要となっている。
- 農業分野でもデジタル化・バリューチェーン変革の流れが加速しており、コロナ禍で深刻な影響を受けた小農等脆弱層のレジリエンス向上が課題となっている。その際にもマーケティング・収入向上、バリューチェーン開発・民間連携の視点が重要となっている。
- 予見可能で公正なビジネス環境を整えるため、ビジネス関連法の運用改善が必要となっている。

今後の取り組み方針

① 質の高いアフリカ経済の実現：

質の高いアフリカ経済と魅力的なビジネス環境を実現するため、アフリカ・カイゼン・イニシアティブ、ビジネスイノベーション創出のための起業家支援(NINJA)、農林水産業振興(CARD,SHEP)、ビジネス環境整備(ビジネス法支援等)に取り組む。

② 新たな価値に着目したカイゼン支援の推進：

カイゼンに経営全般やデジタル化対応支援も加えて包括的支援とするとともに、ウィズコロナ、ポストコロナでのカイゼンの新たな価値(デジタル化、ESG、イノベーションとの親和性、コロナ衛生対応等)に着目した取組を推進する。

③ 社会課題の解決を目指す起業家の育成：

日系企業等との連携を図りつつ、イノベーション・DXの加速を通じて新産業の創出とSDGsに貢献する取り組みとして、社会課題をビジネスとして解決を図る起業家の育成を NINJAとして推進する。

④ 金融アクセスの改善：

資金協力(中小企業支援向け円借款や海外投融資等)と企業競争力強化(カイゼン等)のための技術協力の一体的な支援を行うとともに、新しい技術を活用した金融サービスの活用を検討する。

⑤ 農林水産業振興：

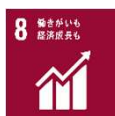
農林水産業振興においては、引き続きCARD フェーズ2、SHEPを推進する。その際には、特にマーケティング、バリューチェーン開発・民間連携に注力。コロナ禍による農業デジタル化やバリューチェーン・サプライチェーンの変革にも対応。TICAD7で打ち出した「アフリカ農業イノベーションプラットフォーム構想(AIPA)」を推進する。

⑥ ビジネス関連法の運用改善と産官学との協働活動推進：

魅力的なビジネス環境を実現するため、知財法、競争法、倒産法等のビジネス法令に関する支援可能性を追求するとともに、官民連携の下で、ABEイニシアティブ、開発大学院連携プログラム、アフリカ自動車産業振興調査を通じたアフリカ自動車ビジネス界との連携、アフリカ・ビジネス協議会(JBCA)との協働による官民連携事業、JICA食と農の協働プラットフォーム(JiPFA)を通じた国内産官学との協働活動等に取り組む。



貢献する SDGs



【強いアフリカ域内経済】 域内統合の推進と魅力的なビジネス環境の構築： アフリカ経済開発（産業開発・農業開発）とビジネス促進

これまでのJICAの取り組み



日本の品質・生産性向上アプローチであるカイゼン活動の普及を通じ、企業の競争力強化に資する産業人材の育成を支援。日本人専門家に指導を受けたカメルーン人コンサルタントが現地企業にアドバイスを行っている。



アフリカ連合開発庁(AUDA-NEPAD)と連携し、2017年から「アフリカ・カイゼン・イニシアティブ」を実施中。カイゼン年次会合を開催し、カイゼン活動普及のネットワーク形成を推進している。



途上国の社会的課題の解決に挑むスタートアップ支援を目的としたProject NINJA (Next Innovation with JAPAN)の一環としてビジネスプランコンテストを実施。2,713社の応募から10社を選定し、2021年2月にオンラインピッチイベントを開催した。



SHEPを通じて農家の意識を「作ってから売る」ではなく「売のために作る」に変革することを支援。農家は民間企業とビジネス交渉が出来るようになった。



CARDフェーズ2を通じてアフリカでのコメ生産倍増に向けた協力を展開。マダガスカルで農民に対して脱穀の研修を実施。



AIPAの一環として農業機械のアフリカビジネス展開を支援。本邦にてアフリカ留学生向けに製品説明会を開催。